

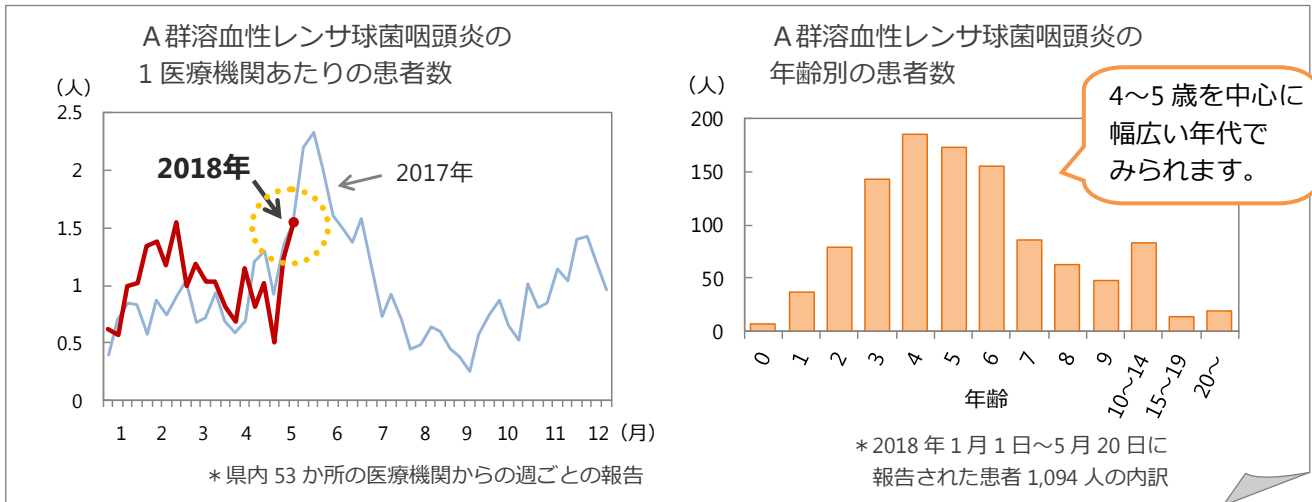
# ぎふ感染症かわら版

平成 30 年 5 月 25 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



## A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎に注意しましょう！

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、お子さんによくみられる感染症で、初夏と冬に患者が多くなります。今年も 5 月半ば時点で患者が増加しつつあり、6 月にかけてさらに増えることが予想されます。



### どんな病気？

A 群溶血性レンサ球菌（溶連菌とも呼ばれます。）による感染症です。感染すると、急な発熱と<sup>ようれんきん</sup>のどの痛みや腫れ（咽頭炎・扁桃炎）を起こします。舌にイチゴのようなつぶつぶがで（イチゴ舌）、体や手足に発疹が出ることもあります。



溶連菌は、咽頭炎の他にも、皮膚の炎症や中耳炎など、感染する場所によってさまざまな症状を起こすことがあります。

治療は**抗菌薬**で行います。菌を確実に退治するために、症状がよくなっても、**出された薬を最後まで飲む**（5～10 日）ことが大切です。



### どうやってうつるの？ 予防方法は？

溶連菌は、感染した人の鼻やのどに出てくるため、咳やくしゃみのしぶきによる**飛沫感染**や、手指を介した**接触感染**でうつります。**家庭**や**学校**など、人と人とのふれ合いが多い場所で感染が広がりやすくなります。

予防には、こまめな**手洗い**が大切です。また、兄弟がかかった時などは、身近に接することを控えましょう。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

